

と思う。

加えて、子どもが入れる水辺があればとも考えている。プール、水辺、水たまりと、子どもは水が大好きだが、水質汚染の問題もあって規制され、実際に遊べる場所は少ないのが現状だ。大森山であれば、魚やザリガニを捕って、それを動物たちのエサにするというようなことができないものかと思う。さらに、大人も元気がもらえる、秘密基地のような遊び場づくりも提案したい。



【略歴】

1968年、秋田県仙北市生まれ。秋田大学教育学部を卒業後、私立秋田南幼稚園に7年間勤務したが、閉園により退職。

2001年、自身の保育経験・育児経験を綴ったエッセイ「心で感じる幸せな子育て」出版。それを機に、教育関係の広報誌などへの連載、子育て講座・講演活動、ラジオ子育てコーナー担当、イラストやエッセイ執筆など活動の場を広げる。

2005年より、自宅を解放し「出会いと生きがい創りの場・陽だまりサロン」を運営。

上記のほか、「子どもが輝く幸せな子育て」「のびのび子育て・教育QandA」(共に「ほんの木」)。ペンネーム・藤村亜紀、「マンガでわかる食育」(幕内秀夫氏との共著「かもがわ出版」)などの著書も。

たくさんのご意見ありがとうございます

当日は、マスコミや市民100会の方を含め、約200の方が来場しました。聴講した方々の意見をご紹介します。

- ◆各分野の専門家の人達から大森山動物園の可能性の話が聞けて、秋田に活力が出る気がしました。
- ◆少子高齢化の中で魅力的でなければ、動物園が消滅してしまう。そうならないようにしてほしい。
- ◆上野動物園、旭山動物園などの色々な違いがわかりました。大森山動物園のコンセプトを守り、他の場との違いを守って行ってください。我々市民も、大人も行くようにこれからです。
- ◆各シンポジストの方々の話から、園をどの様に工夫改善したら動物達と共生出来るかなど、関係者が懸命に頑張っていることに感動した。これからも一市民として時間を見て動物達とふれあいたい。
- ◆動物園と多角的に捉えた提言の数々に、非常に意義深いシンポジウムでした。動物園の発展が野生動物を守り地球を救う、そのためにできることを自分でも考えてみたい。動物園はただ動物を見るだけでなく、色々学ぶこともわかったので、友人や家族、次世代にも伝えていきたい。自殺者が多い秋田で生命の大切さを伝えることができるよい場所であることを広く伝えていきたい。
- ◆本当に動物を愛しているからこそ、動物の命をつなぐ事を皆さんが考えている事を感じました。しかし、経営という事も重要であり、問題は多いと思います。機会を見つけ動物園を訪ねてみようと思います。
- ◆動物園はただ檻の中に入っている動物を見るだけと思っていましたが、旭山動物園の画期的な話をテレビで見て、すごく興味を持ちました。やはり一度は行ってみたいと思っておりました。秋田でも工夫しているようですが、一度行ったらまた一度行ってみたいような動物園であってほしいです。でも今日のお話を聞いて素晴らしい計画案があるようなので期待しております。

※一部のご意見のみご紹介しています。